《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅠ			ナンバリング	MB26-GE-17-1
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ◎　A12-99（思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ○　A13-105（主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。				

《授業の概要》
大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養う。基礎的能力としては聴く・読む・書く・調べる・整理する・まとめる・表現する・伝える・ 考えるについて、効果的に学ぶ力を修得する。

《テキスト》
『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業の到達目標》
①「大学で学ぶ」意味
②ノートをとる技術、文献を読む、要約しまとめる技術
③レポート作成のための情報収集
④パソコンを使って効率的にレポート作成
⑤プレゼンテーションの基礎的技術

《授業時間外学修》
事前学修：授業範囲のテキストを読み学習内容を把握しておく。（30分程度）
事後学修：学んだ内容を復習し、授業で出された課題を作成する。（1時間程度）

《成績評価の方法》
○ワークシート：40%［学習目標①～⑤に対応］
○小課題：10%［学習目標④に対応］
○最終課題：50%［学習目標③④⑤に対応］
《課題へのフィードバックの方法》
授業内で説明する

《備考》
アカデミックスキルの教育について教授経験を有する教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業のねらいと運用についての説明
2	学習技術とは	「大学で学ぶ」とはどういうことか、タイムマネジメント
3	ノート・テイキング	講義ノートをとる技術
4	概要・要点をよみとる	文献を読むための基礎的な技術
5	要約から感想・意見を書く	文献の内容を要約する・自分の意見をまとめる技術
6	情報収集１・２	図書館の利用方法と文献利用の基礎技術・インターネットでの情報収集
7	情報収集３・情報の整理	図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理
8	レポートを書く	レポートを書くための基礎的な技術
9	最終課題の説明	課題テーマ提示・レポート作成のプロセス、最終課題作成手順 情報倫理について
10	わかりやすい表現	わかりやすい表現技術
11	ライティング・スキル１	Word と Excel を活用したレポート作成
12	パソコンによるライティング・スキル２	スケジュールに沿って、課題を作成の作業
13	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションのための基礎的技術
14	わかりやすいプレゼンテーション	より効果的なプレゼンテーションを行う技術
15	まとめ	14回授業の重要なポイントの総復習を行う

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅡ			ナンバリング	MB26-GE-18-1
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　A13-106（主体性・多様性・協調性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》
廿日市市の現状を理論を用いて把握し課題を明確にする。その課題解決のために策を立案し実施する。その過程において学生自らが主体的に考え、地域と協働し行動する。この一連の過程をグループリーダーを中心にグループメンバーと共に取り組み、グループダイナミクスを考慮しながら解決を目指す。これらの学びを通じて社会人基礎力を醸成する。

《授業の到達目標》
①理論を用いて廿日市市を理解できる
②廿日市市の課題がわかる
③課題解決のための策が立案できる
④課題解決のために地域と協働し主体的に取り組める
⑤すべての過程においてグループダイナミクスを意識し協働することができる
⑥聞き手が理解しやすいように活動をまとめ、発表できる。

《成績評価の方法》
レポート70%、発表資料30%
《課題へのフィードバックの方法》
授業の中で説明する

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
・佐伯和子 編著，『地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版』．医歯薬出版株式会社，2018.

《授業時間外学修》
事前学修：シラバスを読み学習内容について把握し考えておく。(15分程度)
事後学修：授業の到達目標を達成するために、自分はどのような取り組みをすべきかを考え行動する。（60分程度）

《備考》
地域・社会連携の実務、教授経験を有する教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	本科目の内容やねらい、評価方法についての説明
2	地域を知る	コミュニティーアズパートナーモデルの学習
3	仲間を知り、多様性を理解	グループワークで廿日市市の地域診断を行い、そのなかで、メンバーシップを確認する
4	地域を知る	地域診断を完成させる
5	課題解決方法を知る	地域診断結果を元に、課題を明確にする 課題解決プロセスそれぞれのリーダーを決め、役割を確認する
6	課題解決方法を知る	地域課題の原因を洗い出し、解決のための仮説を立案する
7	現場を確認する	仮説を検証するために地域を踏査する
8	社会を知る	立案した仮設から、解決策を明らかにする
9	社会を知る	地域課題の具体的解決策の立案
10	社会課題を解決する	地域課題解決策の明確化
11	社会課題を解決する	地域課題の解決策を実施
12	グループ発表資料の作成	地域課題の解決状況確認、発表資料作成
13	グループ発表	地域課題解決プロセス発表
14	グループ発表	地域課題解決プロセス発表
15	振り返りと今後の展望	最終レポート提出と説明

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅠ			ナンバリング	MB25-GE-17-1
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ◎ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A13-133（主体性・多様性・協調性)多様性を理解したうえで、自分の役割を認識し、協力して問題解決ができる。				

《授業の概要》
大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養う。基礎的能力としては聴く・読む・書く・調べる・整理する・まとめる・表現する・伝える・ 考えるについて、効果的に学ぶ力を修得する。

《テキスト》
『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業の到達目標》
①「大学で学ぶ」意味
②ノートをとる技術、文献を読む、要約しまとめる技術
③レポート作成のための情報収集
④パソコンを使って効率的にレポート作成
⑤プレゼンテーションの基礎的技術

《授業時間外学修》
事前学修：授業範囲のテキストを読み学習内容を把握しておく。（30分程度）
事後学修：学んだ内容を復習し、授業で出された課題を作成する。（1時間程度）

《成績評価の方法》
○ワークシート：40%［学習目標①～⑤に対応］
○小課題：10%［学習目標④に対応］
○最終課題：50%［学習目標③④⑤に対応］
《課題へのフィードバックの方法》
授業内で説明する

《備考》
アカデミックスキルの教育について教授経験を有する教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業のねらいと運用についての説明
2	学習技術とは	「大学で学ぶ」とはどういうことか、タイムマネジメント
3	ノート・テイキング	講義ノートをとる技術
4	概要・要点をよみとる	文献を読むための基礎的な技術
5	要約から感想・意見を書く	文献の内容を要約する・自分の意見をまとめる技術
6	情報収集１・２	図書館の利用方法と文献利用の基礎技術・インターネットでの情報収集
7	情報収集３・情報の整理	図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理
8	レポートを書く	レポートを書くための基礎的な技術
9	最終課題の説明	課題テーマ提示・レポート作成のプロセス、最終課題作成手順 情報倫理について
10	わかりやすい表現	わかりやすい表現技術
11	ライティング・スキル１	Word と Excel を活用したレポート作成
12	パソコンによるライティング・スキル２	スケジュールに沿って、課題を作成の作業
13	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションのための基礎的技術
14	わかりやすいプレゼンテーション	より効果的なプレゼンテーションを行う技術
15	まとめ	14回授業の重要なポイントの総復習を行う

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅡ			ナンバリング	MB25-GE-18-1
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ◎ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A13-133（主体性・多様性・協調性)多様性を理解したうえで、自分の役割を認識し、協力して問題解決ができる。				

《授業の概要》
廿日市市の現状を理論を用いて把握し課題を明確にする。その課題解決のために策を立案し実施する。その過程において学生自らが主体的に考え、地域と協働し行動する。この一連の過程をグループリーダーを中心にグループメンバーと共に取り組み、グループダイナミクスを考慮しながら解決を目指す。これらの学びを通じて社会人基礎力を醸成する。

《授業の到達目標》
①理論を用いて廿日市市を理解できる
②廿日市市の課題がわかる
③課題解決のための策が立案できる
④課題解決のために地域と協働し主体的に取り組める
⑤すべての過程においてグループダイナミクスを意識し協働することができる
⑥聞き手が理解しやすいように活動をまとめ、発表できる。

《成績評価の方法》
レポート70%、発表資料30%
《課題へのフィードバックの方法》
授業の中で説明する

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
・佐伯和子 編著，『地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版』．医歯薬出版株式会社，2018.

《授業時間外学修》
事前学修：シラバスを読み学習内容について把握し考えておく。(15分程度)
事後学修：授業の到達目標を達成するために、自分はどのような取り組みをすべきかを考え行動する。（60分程度)

《備考》
地域・社会連携の実務、教授経験を有する教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	本科目の内容やねらい、評価方法についての説明
2	地域を知る	コミュニティーアズパートナーモデルの学習
3	仲間を知り、多様性を理解	グループワークで廿日市市の地域診断を行い、そのなかで、メンバーシップを確認する
4	地域を知る	地域診断を完成させる
5	課題解決方法を知る	地域診断結果を元に、課題を明確にする 課題解決プロセスそれぞれのリーダーを決め、役割を確認する
6	課題解決方法を知る	地域課題の原因を洗い出し、解決のための仮説を立案する
7	現場を確認する	仮説を検証するために地域を踏査する
8	社会を知る	立案した仮設から、解決策を明らかにする
9	社会を知る	地域課題の具体的解決策の立案
10	社会課題を解決する	地域課題解決策の明確化
11	社会課題を解決する	地域課題の解決策を実施
12	グループ発表資料の作成	地域課題の解決状況確認、発表資料作成
13	グループ発表	地域課題解決プロセス発表
14	グループ発表	地域課題解決プロセス発表
15	振り返りと今後の展望	最終レポート提出と説明

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅠ			ナンバリング	MB25-GE-19-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-96（知識・技能）ビジネスマナー、ICT(情報通信技術)活用に関する基本的な知識と技能を修得している。 ◎ A12-99（思考力・判断力・表現力）論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ○ A12-100（思考力・判断力・表現力）獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 ○ A13-105（主体性・多様性・協調性）高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 ○ A13-106（主体性・多様性・協調性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・自己を知る①	授業の説明、人間関係・コミュニケーションづくりの初めは自己を知ること
2	自己を知る②	マインドマップ作成と活用
3	自己紹介	自己PRを作成（PowerPoint使用）
4	就職状況・キャリア支援の状況	就職状況・キャリア支援について
5	履歴書・小論文	履歴書・小論文の書き方
6	職種・企業の調査①	希望する職種・企業を調査
7	職種・企業の調査②	希望する職種・企業調査結果の発表（各職種ごと）
8	ディスカッション①	ディスカッションとは、ディスカッションの効果的方法
9	ディスカッション②	グループディスカッション（演習）
10	ディベート	ディベートとは、ディベートの効果的方法、（演習）
11	新社会人に期待すること①	国政の立場から新社会人に期待すること
12	社会における女性の活躍	女性が社会で活躍するために
13	新社会人に期待すること②	企業として新社会人に期待すること①
14	新社会人に期待すること③	企業として新社会人に期待すること②
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ			ナンバリング	MB25-GE-20-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ◎ A12-99（思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ○ A12-100（思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。 ○ A13-105（主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 ○ A13-106（主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・企業を知る①	サービス業の働く場を知る
2	企業を知る②	製造業の働く場を知る
3	企業を知る③	行政の働く場を知る
4	企業を知る④	医療・福祉の働く場を知る
5	働く人の安全と健康	働く人の安全と健康を守る組織の体制（労働災害・KYT活動・職業病）
6	働く女性の健康	働く女性の健康管理（定期健康診断・がん検診・メンタルヘルス）
7	労働法規	労働基準法、労働安全衛生法、女性の健康関連法規
8	自然環境	気候変動と健康リスク、シックハウス
9	食品衛生	食の安全、関係法規、食文化、
10	精神衛生	ストレスとメンタルヘルスケア
11	四次元思考	四次元思考的考え方を演習から学ぶ
12	AIとどのようにつきあうか	AIの概要、生成AI
13	将来に役立つお金の話	給与明細、家計簿
14	経済リスクマネジメント	貯蓄、株式投資
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅠ			ナンバリング	MB25-GE-19-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-111（知識・技能）食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ◎ A13-125（主体性・多様性・協調性）幅広い視点と職業人としての社会的責任と倫理観を持って行動することができる。 ○ A13-126（主体性・多様性・協調性）自分の役割を自覚し、協調しながら責任を果たすことができる。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・自己を知る①	授業の説明、人間関係・コミュニケーションづくりの初めは自己を知ること
2	自己を知る②	マインドマップ作成と活用
3	自己紹介	自己PRを作成（PowerPoint使用）
4	就職状況・キャリア支援の状況	就職状況・キャリア支援について
5	履歴書・小論文	履歴書・小論文の書き方
6	職種・企業の調査①	希望する職種・企業を調査
7	職種・企業の調査②	希望する職種・企業調査結果の発表（各職種ごと）
8	ディスカッション①	ディスカッションとは、ディスカッションの効果的方法
9	ディスカッション②	グループディスカッション（演習）
10	ディベート	ディベートとは、ディベートの効果的方法、（演習）
11	新社会人に期待すること①	国政の立場から新社会人に期待すること
12	社会における女性の活躍	女性が社会で活躍するために
13	新社会人に期待すること②	企業として新社会人に期待すること①
14	新社会人に期待すること③	企業として新社会人に期待すること②
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ			ナンバリング	MB25-GE-20-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-111（知識・技能)食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ◎ A12-120（思考力・判断力・表現力)社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。 ○ A13-126（主体性・多様性・協調性)自分の役割を自覚し、協調しながら責任を果たすことができる。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・企業を知る①	サービス業の働く場を知る
2	企業を知る②	製造業の働く場を知る
3	企業を知る③	行政の働く場を知る
4	企業を知る④	医療・福祉の働く場を知る
5	働く人の安全と健康	働く人の安全と健康を守る組織の体制（労働災害・KYT活動・職業病）
6	働く女性の健康	働く女性の健康管理（定期健康診断・がん検診・メンタルヘルス）
7	労働法規	労働基準法、労働安全衛生法、女性の健康関連法規
8	自然環境	気候変動と健康リスク、シックハウス
9	食品衛生	食の安全、関係法規、食文化、
10	精神衛生	ストレスとメンタルヘルスケア
11	四次元思考	四次元思考的考え方を演習から学ぶ
12	AIとどのようにつきあうか	AIの概要、生成AI
13	将来に役立つお金の話	給与明細、家計簿
14	経済リスクマネジメント	貯蓄、株式投資
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅠ			ナンバリング	MB25-GE-19-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-141（知識・技能)国や地域の文化、人間・社会及び環境・自然についての幅広い知識を有している。 ○ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ◎ A13-145（主体性・多様性・協調性)他者の多様な意見に耳を傾けながら、問題解決のために主体性をもって行動できる。 ○ A13-146（主体性・多様性・協調性)自己の律し、マナーを守り、責任感を持って周りの人と協働することができる。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・自己を知る①	授業の説明、人間関係・コミュニケーションづくりの初めは自己を知ること
2	自己を知る②	マインドマップ作成と活用
3	自己紹介	自己PRを作成（PowerPoint使用）
4	就職状況・キャリア支援の状況	就職状況・キャリア支援について
5	履歴書・小論文	履歴書・小論文の書き方
6	職種・企業の調査①	希望する職種・企業を調査
7	職種・企業の調査②	希望する職種・企業調査結果の発表（各職種ごと）
8	ディスカッション①	ディスカッションとは、ディスカッションの効果的方法
9	ディスカッション②	グループディスカッション（演習）
10	ディベート	ディベートとは、ディベートの効果的方法、（演習）
11	新社会人に期待すること①	国政の立場から新社会人に期待すること
12	社会における女性の活躍	女性が社会で活躍するために
13	新社会人に期待すること②	企業として新社会人に期待すること①
14	新社会人に期待すること③	企業として新社会人に期待すること②
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ			ナンバリング	MB25-GE-20-2
担当者氏名	新谷　奈苗、永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-141（知識・技能)国や地域の文化、人間・社会及び環境・自然についての幅広い知識を有している。 ○ A11-142（知識・技能)地域や社会に貢献するために必要な専門知識と技能を有している。 ◎ A13-133（主体性・多様性・協調性)多様性を理解したうえで、自分の役割を認識し、協力して問題解決ができる。 ◎ A13-145（主体性・多様性・協調性)他者の多様な意見に耳を傾けながら、問題解決のために主体性をもって行動できる。 ○ A13-146（主体性・多様性・協調性)自己の律し、マナーを守り、責任感を持って周りの人と協働することができる。				

《授業の概要》
これから社会に出ていくために必要な考え方、知識、マナーや立ち居振る舞いを学ぶ。社会を広く見渡す視点や多様な考え方に触れることで、自らを見つめ直し、より良い選択と新たな道に進む準備を行う。

《授業の到達目標》
働く女性として身につけておきたい知識、技能を修得し、すべての授業が終了した際には、社会で働く自らの姿がイメージできる。加えて、職業人とはどうあるべきか、どうありたいかについて自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》
適宜出題するレポート(80%)・発表(20%)で評価する。
《学生へのフィードバック方法》
授業内で説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：事前資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：復習および課題に取り組む（60分程度）

《備考》
対面授業の予定だが、社会状況等により遠隔授業に変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・企業を知る①	サービス業の働く場を知る
2	企業を知る②	製造業の働く場を知る
3	企業を知る③	行政の働く場を知る
4	企業を知る④	医療・福祉の働く場を知る
5	働く人の安全と健康	働く人の安全と健康を守る組織の体制（労働災害・KYT活動・職業病）
6	働く女性の健康	働く女性の健康管理（定期健康診断・がん検診・メンタルヘルス）
7	労働法規	労働基準法、労働安全衛生法、女性の健康関連法規
8	自然環境	気候変動と健康リスク、シックハウス
9	食品衛生	食の安全、関係法規、食文化、
10	精神衛生	ストレスとメンタルヘルスケア
11	四次元思考	四次元思考的考え方を演習から学ぶ
12	AIとどのようにつきあうか	AIの概要、生成AI
13	将来に役立つお金の話	給与明細、家計簿
14	経済リスクマネジメント	貯蓄、株式投資
15	まとめ	全体まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生命倫理			ナンバリング	MB25-GE-16-2
担当者氏名	新谷　奈苗、室津　史子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○　A12-137（思考力・判断力・表現力)自分自身や他者の心理や行動について理解し、適切な行動ができる。 ◎　A13-140（主体性・多様性・協調性)社会人として必要な規律性、倫理観を持って協調できる自己管理能力を身につけている。				

《授業の概要》
医療の進歩に伴い，生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では，生命に携わる専門職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに，倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を修得するために，事例やワークを通して学びを深める。

《授業の到達目標》
1.専門職者に必要な倫理原則や生命にかかわる倫理的課題がわかる。
2.それぞれの倫理的課題を踏まえ，患者・家族の置かれている状況・特徴がわかる。
3.自身のいのちと死生観について自分の考えを語ることができる。

《成績評価の方法》
1.試験70％
2.レポート30％
≪試験のフィードバック方法≫
試験後に、正解できなかった問題について解説を行う。

《テキスト》
児玉　聡「マンガで学ぶ生命倫理」(株)化学同人

《参考図書》

《授業時間外学修》
事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理する。（30分）
事後学習：授業の内容を振り返り、理解が不十分だった部分について、テキストや文献を見直し理解につなぐ。（30分）

《備考》
倫理教育について教授経験のある教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス／生と死を考える	授業の概要と進め方 いのちとは何か、いのちの尊厳、死とは何か
2	倫理とは何か	生命倫理の定義、倫理と道徳の違い、生命倫理の歴史、
3	医の倫理とは	ヒポクラテスの誓い、倫理的ジレンマ、パターナリズム
4	病いをもつ人の心理	健康と病気、病との共生、がん告知、セカンドオピニオン、インフォームドコンセント、死にゆく人の心理
5	生命の終わりをめぐる諸問題　①	ターミナルケア、人生の最終段階における意思決定、看取り
6	生命の終わりをめぐる諸問題　②	尊厳死、尊厳死許容の原則、リビング・ウイル、グリーフケア
7	生命の終わりをめぐる諸問題　③	安楽死、安楽死の分類、安楽死許容の原則
8	現代の諸問題　①	認知症者の心理
9	現代の諸問題　②	認知症者の事例を用いて、認知症者へのケアと尊厳を考える
10	現代の諸問題　③	人工妊娠中絶、中絶をめぐる法的問題／こどもの権利、赤ちゃんポスト
11	現代の諸問題　④	出生前遺伝的検査・遺伝子診断や治療に関する倫理
12	現代の諸問題　⑤	人へのクローン技術応用に関する倫理、ｉＰＳ細胞、ＥＳ細胞、再生医療研究と倫理
13	現代の諸問題　⑥	脳死による臓器移植と倫理
14	事例検討①	事例を用いて生命倫理学を考える
15	事例検討②	事例を用いて生命倫理学を考える

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生命倫理			ナンバリング	MB25-GE-16-2
担当者氏名	新谷　奈苗、室津　史子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　A13-125（主体性・多様性・協調性）幅広い視点と職業人としての社会的責任と倫理観を持って行動することができる。				

《授業の概要》
医療の進歩に伴い，生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では，生命に携わる専門職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに，倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を修得するために，事例やワークを通して学びを深める。

《授業の到達目標》
1.専門職者に必要な倫理原則や生命にかかわる倫理的課題がわかる。
2.それぞれの倫理的課題を踏まえ，患者・家族の置かれている状況・特徴がわかる。
3.自身のいのちと死生観について自分の考えを語ることができる。

《成績評価の方法》
1.試験70％
2.レポート30％
≪試験のフィードバック方法≫
試験後に、正解できなかった問題について解説を行う。

《テキスト》
児玉　聡「マンガで学ぶ生命倫理」(株)化学同人

《参考図書》

《授業時間外学修》
事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理する。（30分）
事後学習：授業の内容を振り返り、理解が不十分だった部分について、テキストや文献を見直し理解につなぐ。（30分）

《備考》
倫理教育について教授経験のある教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス／生と死を考える	授業の概要と進め方 いのちとは何か、いのちの尊厳、死とは何か
2	倫理とは何か	生命倫理の定義、倫理と道徳の違い、生命倫理の歴史、
3	医の倫理とは	ヒポクラテスの誓い、倫理的ジレンマ、パターナリズム
4	病いをもつ人の心理	健康と病気、病との共生、がん告知、セカンドオピニオン、インフォームドコンセント、死にゆく人の心理
5	生命の終わりをめぐる諸問題　①	ターミナルケア、人生の最終段階における意思決定、看取り
6	生命の終わりをめぐる諸問題　②	尊厳死、尊厳死許容の原則、リビング・ウイル、グリーフケア
7	生命の終わりをめぐる諸問題　③	安楽死、安楽死の分類、安楽死許容の原則
8	現代の諸問題　①	認知症者の心理
9	現代の諸問題　②	認知症者の事例を用いて、認知症者へのケアと尊厳を考える
10	現代の諸問題　③	人工妊娠中絶、中絶をめぐる法的問題／こどもの権利、赤ちゃんポスト
11	現代の諸問題　④	出生前遺伝的検査・遺伝子診断や治療に関する倫理
12	現代の諸問題　⑤	人へのクローン技術応用に関する倫理、ｉＰＳ細胞、ＥＳ細胞、再生医療研究と倫理
13	現代の諸問題　⑥	脳死による臓器移植と倫理
14	事例検討①	事例を用いて生命倫理学を考える
15	事例検討②	事例を用いて生命倫理学を考える

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	生命倫理			ナンバリング	MB25-GE-16-2
担当者氏名	新谷　奈苗、室津　史子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ○　A13-133（主体性・多様性・協調性)多様性を理解したうえで、自分の役割を認識し、協力して問題解決ができる。 ◎　A13-134（主体性・多様性・協調性)医療人になる意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》
医療の進歩に伴い，生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では，生命に携わる専門職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに，倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を修得するために，事例やワークを通して学びを深める。

《授業の到達目標》
1.専門職者に必要な倫理原則や生命にかかわる倫理的課題がわかる。
2.それぞれの倫理的課題を踏まえ，患者・家族の置かれている状況・特徴がわかる。
3.自身のいのちと死生観について自分の考えを語ることができる。

《成績評価の方法》
1.試験70％
2.レポート30％
≪試験のフィードバック方法≫
試験後に、正解できなかった問題について解説を行う。

《テキスト》
児玉　聡「マンガで学ぶ生命倫理」(株)化学同人

《参考図書》

《授業時間外学修》
事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理する。（30分）
事後学習：授業の内容を振り返り、理解が不十分だった部分について、テキストや文献を見直し理解につなぐ。（30分）

《備考》
倫理教育について教授経験のある教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス／生と死を考える	授業の概要と進め方 いのちとは何か、いのちの尊厳、死とは何か
2	倫理とは何か	生命倫理の定義、倫理と道徳の違い、生命倫理の歴史、
3	医の倫理とは	ヒポクラテスの誓い、倫理的ジレンマ、パターナリズム
4	病いをもつ人の心理	健康と病気、病との共生、がん告知、セカンドオピニオン、インフォームドコンセント、死にゆく人の心理
5	生命の終わりをめぐる諸問題　①	ターミナルケア、人生の最終段階における意思決定、看取り
6	生命の終わりをめぐる諸問題　②	尊厳死、尊厳死許容の原則、リビング・ウイル、グリーフケア
7	生命の終わりをめぐる諸問題　③	安楽死、安楽死の分類、安楽死許容の原則
8	現代の諸問題　①	認知症者の心理
9	現代の諸問題　②	認知症者の事例を用いて、認知症者へのケアと尊厳を考える
10	現代の諸問題　③	人工妊娠中絶、中絶をめぐる法的問題／こどもの権利、赤ちゃんポスト
11	現代の諸問題　④	出生前遺伝的検査・遺伝子診断や治療に関する倫理
12	現代の諸問題　⑤	人へのクローン技術応用に関する倫理、ｉＰＳ細胞、ＥＳ細胞、再生医療研究と倫理
13	現代の諸問題　⑥	脳死による臓器移植と倫理
14	事例検討①	事例を用いて生命倫理学を考える
15	事例検討②	事例を用いて生命倫理学を考える

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	統計学			ナンバリング	MB26-GE-03-1
担当者氏名	永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A12-99（思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ◎ A13-105（主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。				

《授業の概要》
統計学的推論、検定の計算処理は、コンピュータを用いて多く行われている。しかし、どの方法を用いるのか、得られた結果をどのように解釈するのかという判断は自分自身で行う必要がある。本講義では、具体的な例を通して統計学の基礎を学ぶ。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》
1.統計分析の概念と処理方法を理解している。
2.データに対して適切な統計処理を選択できる。
3.パーソナルコンピュータを用いて基本的な統計計算を実施できる。
4.統計計算結果の評価方法を理解している。

《授業時間外学修》
事前学修：事前に配布した資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：授業で学んだことを復習する（30分程度）

《成績評価の方法》
①期末時に実施するレポート課題70%
②随時提示する課題への取り組み状況30%
≪フィードバックの方法≫
理解が不充分な点について、講義のなかで説明する。

《備考》
実務家教員による授業。
PCとExcelを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス、統計学概要	授業の進め方、概論、基礎数学、データの型
2	処理の流れ	データ分析の重要性と処理の例 記述統計と推測統計
3	正規分布	正規分布と基準値
4	代表値	平均値・中央値・最頻値・標準偏差
5	母集団と標本	標本調査と全数調査、確率変数と確率分布
6	推定	区間推定と点推定、信頼区間
7	検定①	統計的仮説検定の基礎
8	検定②	2群の比較のための検定1
9	検定③	2群の比較のための検定2
10	検定④	医療における統計の役割 適合度と独立性
11	検定⑤	単回帰分析と重回帰分析
12	検定⑥	分散分析の考え方
13	検定⑦	データ分析の実際
14	度数分布	ヒストグラム、各種グラフ
15	相関、まとめと最終レポート	散布図と相関係数 学修内容のまとめ、質疑、最終レポート

《教養科目 科学的思考の基盤 一般教養》

科目名	統計学			ナンバリング	MB25-GE-03-1
担当者氏名	永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A13-134（主体性・多様性・協調性)医療人になる意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。 ○ A13-145（主体性・多様性・協調性)他者の多様な意見に耳を傾けながら、問題解決のために主体性をもって行動できる。				

《授業の概要》
統計学的推論、検定の計算処理は、コンピュータを用いて多く行われている。しかし、どの方法を用いるのか、得られた結果をどのように解釈するのかという判断は自分自身で行う必要がある。本講義では、具体的な例を通して統計学の基礎を学ぶ。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》
1.統計分析の概念と処理方法を理解している。
2.データに対して適切な統計処理を選択できる。
3.パーソナルコンピュータを用いて基本的な統計計算を実施できる。
4.統計計算結果の評価方法を理解している。

《授業時間外学修》
事前学修：事前に配布した資料を読んでおく（30分程度）
事後学修：授業で学んだことを復習する（30分程度）

《成績評価の方法》
①期末時に実施するレポート課題70%
②随時提示する課題への取り組み状況30%
≪フィードバックの方法≫
理解が不充分な点を講義のなかで説明する。

《備考》
実務家教員による授業。
PCとExcelを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス、統計学概要、数値の扱い	授業の進め方、概論、基礎数学、データの型
2	処理の流れ	データ分析の重要性と処理の例 記述統計と推測統計
3	基準値	正規分布と基準値
4	代表値	平均値・中央値・最頻値・標準偏差
5	母集団と標本	標本調査と全数調査、確率変数と確率分布
6	推定	区間推定と点推定、信頼区間
7	検定①	統計的仮説検定の基礎
8	検定②	2群の比較のための検定1
9	検定③	2群の比較のための検定2
10	検定④	医療における統計の役割 適合度と独立性
11	検定⑤	単回帰分析と重回帰分析
12	検定⑥	分散分析の考え方
13	検定⑦	データ分析の実際
14	度数分布	ヒストグラム、各種グラフ
15	相関、まとめと最終レポート	散布図と相関係数 学修内容のまとめ、質疑、最終レポート

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	データサイエンス入門			ナンバリング	MB25-GE-09-2
担当者氏名	永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-93（知識・技能）人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ◎　A11-142（知識・技能）地域や社会に貢献するために必要な専門知識と技能を有している。 ○　A12-143（思考力・判断力・表現力）これまで修得した知識・技能を統合的に活用し、創造的に考えて判断し、行動できる。				

《授業の概要》
社会のさまざまな情報を整理、活用することが求められている。本授業ではデータサイエンスの基本的な知識を身につけたうえで、具体的な情報の集め方、整理、分析、活用の基礎的な方法を学ぶ。

《授業の到達目標》
・データサイエンスに関する基本的な知識を身につけている。
・Excelで実践可能なデータサイエンス入門レベルの技術を使うことができる。

《成績評価の方法》
中間レポート：60%
期末レポート：40%
≪フィードバックの方法≫
理解が不充分な点について、講義のなかで説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：テキスト内の次回の授業部分を読み、概要を理解する。（30分）
事後学修：授業で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。（30分）

《備考》
実務でデータ利活用を行っている教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・データサイエンスとは①	ガイダンス、データサイエンス概要
2	データサイエンスとは②	データサイエンスを構成する要素
3	ディープラーニングとは	ディープラーニングとは何か、またその事例
4	データ分析技法①	グラフによる可視化
5	データ分析技法②	分布と統計的手法を用いる意義
6	データ分析技法③	Excelアドインを用いた統計分析方法 基本統計量
7	データの取得方法①	公開されているデータの取得
8	データ分析の実際①	実データを用いた差の検定
9	データ分析の実際②	実データを用いた相関分析と散布図
10	データ分析の実際③	回帰分析
11	データの取得方法②	アンケートツールによるデータ収集と倫理的配慮
12	データ分析技法④	定性データの分析
13	ビッグデータ	大規模データを使ってできること
14	データサイエンスのこれから	今後の展望を考える
15	まとめ	学修内容のまとめと最終レポート

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	データサイエンス入門			ナンバリング	MB25-GE-09-2
担当者氏名	永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-111（知識・技能）食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ○ A12-120（思考力・判断力・表現力）社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。				

《授業の概要》
社会のさまざまな情報を整理、活用することが求められている。本授業ではデータサイエンスの基本的な知識を身につけたうえで、具体的な情報の集め方、整理、分析、活用の基礎的な方法を学ぶ。

《授業の到達目標》
・データサイエンスに関する基本的な知識を身につけている。
・Excelで実践可能なデータサイエンス入門レベルの技術を使うことができる。

《成績評価の方法》
中間レポート：60%
期末レポート：40%
≪フィードバックの方法≫
理解が不充分な点について、講義のなかで説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：テキスト内の次回の授業部分を読み、概要を理解する。（30分）
事後学修：授業で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。（30分）

《備考》
実務でデータ利活用を行っている教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・データサイエンスとは①	ガイダンス、データサイエンス概要
2	データサイエンスとは②	データサイエンスを構成する要素
3	ディープラーニングとは	ディープラーニングとは何か、またその事例
4	データ分析技法①	グラフによる可視化
5	データ分析技法②	分布と統計的手法を用いる意義
6	データ分析技法③	Excelアドインを用いた統計分析方法 基本統計量
7	データの取得方法①	公開されているデータの取得
8	データ分析の実際①	実データを用いた差の検定
9	データ分析の実際②	実データを用いた相関分析と散布図
10	データ分析の実際③	回帰分析
11	データの取得方法②	アンケートツールによるデータ収集と倫理的配慮
12	データ分析技法④	定性データの分析
13	ビッグデータ	大規模データを使ってできること
14	データサイエンスのこれから	今後の展望を考える
15	まとめ	学修内容のまとめと最終レポート

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	データサイエンス入門			ナンバリング	MB25-GE-09-2
担当者氏名	永岡　裕康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ◎ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A13-145（主体性・多様性・協調性)他者の多様な意見に耳を傾けながら、問題解決のために主体性をもって行動できる。				

《授業の概要》
社会のさまざまな情報を整理、活用することが求められている。本授業ではデータサイエンスの基本的な知識を身につけたうえで、具体的な情報の集め方、整理、分析、活用の基礎的な方法を学ぶ。

《授業の到達目標》
・データサイエンスに関する基本的な知識を身につけている。
・Excelで実践可能なデータサイエンス入門レベルの技術を使うことができる。

《成績評価の方法》
中間レポート：60%
期末レポート：40%
≪フィードバックの方法≫
理解が不充分な点について、講義のなかで説明する。

《テキスト》
適宜資料を配布する。

《参考図書》
適宜資料を配布する。

《授業時間外学修》
事前学修：テキスト内の次回の授業部分を読み、概要を理解する。（30分）
事後学修：授業で学んだことを参考書などを用いて復習し、理解を深める。（30分）

《備考》
実務でデータ利活用を行っている教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス・データサイエンスとは①	ガイダンス、データサイエンス概要
2	データサイエンスとは②	データサイエンスを構成する要素
3	ディープラーニングとは	ディープラーニングとは何か、またその事例
4	データ分析技法①	グラフによる可視化
5	データ分析技法②	分布と統計的手法を用いる意義
6	データ分析技法③	Excelアドインを用いた統計分析方法 基本統計量
7	データの取得方法①	公開されているデータの取得
8	データ分析の実際①	実データを用いた差の検定
9	データ分析の実際②	実データを用いた相関分析と散布図
10	データ分析の実際③	回帰分析
11	データの取得方法②	アンケートツールによるデータ収集と倫理的配慮
12	データ分析技法④	定性データの分析
13	ビッグデータ	大規模データを使ってできること
14	データサイエンスのこれから	今後の展望を考える
15	まとめ	学修内容のまとめと最終レポート

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	こころと行動			ナンバリング	MB26-GE-10-1
担当者氏名	東原　義明				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。				

《授業の概要》
日常的な振る舞いや意思決定の背景には、複雑で多様な「こころの動き」が存在しています。現代において心理学への期待はますます高まっています。本講義では、感情や記憶、知覚といった基礎的な仕組みから、対人関係、性格、ストレスへの適応、心理臨床に至るまで幅広いトピックスを取り上げます。身近な題材を通じて「こころ」の深層を探究し、人間の行動を科学的かつ共感的に理解するための基礎を築きます。

《授業の到達目標》
①心理学の主要な領域（知覚・学習・発達・社会心理等）における基礎概念を理解し、自分の言葉で説明できる。
②他者の言動の背後にある心理的メカニズムを推察し、多角的かつ客観的に他者を理解する視点を身につけている。
③自身の感情の動きや行動特性、これまでの発達過程を心理学の知見に照らして内省し、自己理解を深めようとする意識を持つ。

《成績評価の方法》
①試験　70%
②講義中の提出物　30%
《試験のフィードバックの方法》
期末試験後、解説を行う（試験60分，解説30分）。

《テキスト》
特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》
講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》
事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《備考》
原則として対面授業を行う予定だが，必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション　心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	こころと行動			ナンバリング	MB25-GE-10-1
担当者氏名	東原　義明				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。				

《授業の概要》
日常的な振る舞いや意思決定の背景には、複雑で多様な「こころの動き」が存在しています。現代において心理学への期待はますます高まっています。本講義では、感情や記憶、知覚といった基礎的な仕組みから、対人関係、性格、ストレスへの適応、心理臨床に至るまで幅広いトピックスを取り上げます。身近な題材を通じて「こころ」の深層を探究し、人間の行動を科学的かつ共感的に理解するための基礎を築きます。

《授業の到達目標》
①心理学の主要な領域（知覚・学習・発達・社会心理等）における基礎概念を理解し、自分の言葉で説明できる。
②他者の言動の背後にある心理的メカニズムを推察し、多角的かつ客観的に他者を理解する視点を身につけている。
③自身の感情の動きや行動特性、これまでの発達過程を心理学の知見に照らして内省し、自己理解を深めようとする意識を持つ。

《成績評価の方法》
①試験　70%
②講義中の提出物　30%
《試験のフィードバックの方法》
期末試験後、解説を行う（試験60分，解説30分）。

《テキスト》
特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》
講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》
事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《備考》
原則として対面授業を行う予定だが，必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション　心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	人間関係論			ナンバリング	MB25-GE-11-2
担当者氏名	東原　義明				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-111（知識・技能)食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ○ A12-120（思考力・判断力・表現力)社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。 ◎ A13-126（主体性・多様性・協調性)自分の役割を自覚し、協調しながら責任を果たすことができる。				

《授業の概要》
生きていく上で、他者との関わりは不可欠な要素です。本講義では、日常生活における多様な人間関係を心理学の視点から紐解きます。乳児期から老年期に渡る発達過程、恋愛、地域コミュニティ、ビジネスシーンといった「場」による関係性の違い、ストレスや大切な人との別れ（喪の作業）まで、人生の各ステージで生じる諸現象を幅広く扱います。これらの知見を学ぶことで、より豊かな人間関係を築くための視点を養います。

《授業の到達目標》
①対人関係や集団心理に関する概念を用い、人間関係を客観的に説明できる。
②各ライフステージにおける人間関係の特徴と、その発達的な意味を正しく理解している。
③恋愛・組織・地域など、場面に応じた適切な関わり方や、ストレスへの対処法を身につけている。

《成績評価の方法》
①レポート　70%
②授業後の課題　30%
《課題へのフィードバックの方法》
課題ならびにレポートについて学習ポートフォリオを通じてフィードバックする。

《テキスト》
特に指定しない。

《参考図書》
講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》
事前学修：シラバスや授業で予告された内容について予習すること（20分程度）。
事後学修：資料ならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《備考》
原則として対面授業を行う予定だが，必要に応じてオンラインもしくはハイブリッド形式を導入することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：人間関係論とは？	「人間関係論」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	自己と他者	「自己」と関連する諸概念、二者関係における対人認知や印象形成の過程と諸要因について学ぶ。
3	人間関係の発達(1)：乳児期	乳児期における人間関係、母子関係とその発達過程について学ぶ。
4	人間関係の発達(2)：幼児期～学童期	幼児期ならびに学童期における人間関係の発達過程について学ぶ。
5	人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期	青年期、成人期、高齢期（老年期）における人間関係の発達過程について学ぶ。
6	恋愛関係の心理学	恋愛関係および恋愛行動にかかわる理論や要因について学修する。
7	家族関係の心理学(1)	家族関係について心理学的観点から概説する。
8	家族関係の心理学(2)	現代社会における家族を取り巻く環境、困難や支援のあり方について学ぶ。
9	地域社会とコミュニティ(1)	地域社会、コミュニティ、ソーシャルサポートと関連する諸概念について学ぶ。
10	地域社会とコミュニティ(2)	近年のコミュニティの現状、問題点などを検討する。
11	地域社会とコミュニティ(3)	コミュニティにおける支援活動、自助グループ等について学ぶ。
12	集団力学	集団が個人および集団相互に与える心理学的影響について学ぶ。
13	組織の心理学	組織の持つ性質、問題点、リーダーシップの機能等について学ぶ。
14	仕事とストレスマネジメント	仕事をする上でのストレスへの対処やサポートのあり方、対人サービス業におけるストレスについて学ぶ。
15	「さよなら」の心理学	人間関係の終焉としての「別れ」「喪失」について考察する。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生活と科学			ナンバリング	MB25-GE-13-2
担当者氏名	有吉　邦江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A12-99（思考力・判断力・表現力)論理的に物事を考え、これまでに獲得した知識・技能を適切に活用できる。 ○ A13-105（主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。				

《授業の概要》
普段何気なく過ごしている生活における科学的側面を理解する。また、科学的思考をもって生活できる能力を身につける。

《テキスト》
市販テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》
横川公子ほか「生活を科学する」（光生館）
纐纈守「楽しく学ぶ　くらしの化学」（化学同人）

《授業の到達目標》
①生活と科学の関わりについて理解できている。
②生活するうえで、科学的思考が身に付いている。

《授業時間外学修》
事後学修：配付資料の要点整理をしておくこと。(20分程度)

《成績評価の方法》
①期末試験（70%）②演習の取組状況（参加状況・レポート等）（20%）③平常点（10%）提出物、小テスト等
《フィードバックの方法》①期末試験（60分、講評30分）②授業開始前の小テスト終了後解説

《備考》
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	物質科学の基礎	単位の由来、物質の成り立ちなど、物質科学の基礎を振り返る。
2	清潔さの科学	石けん、洗剤などの科学について理解する。
3	金属の科学	金属の性質や用途などについて理解する。
4	いのちの科学1	染色体を構成する核酸の構成、仕組みなどについて理解する。
5	いのちの科学2	体を守る免疫のしくみについて理解する。
6	エネルギーの科学	化石、原子力、自然などのエネルギー資源と課題などについて理解する。
7	色と光の科学	発色の仕組みや感じ方などについて理解する。
8	においの科学	においの感じ方、香り成分や作用などについて理解する。
9	高分子の科学	合成繊維、プラスチックなどの成分や性質などについて理解する。
10	おいしさの科学	おいしさの感じ方などについて理解する。
11	化粧品の科学	化粧品の成分や作用などについて理解する。
12	日用品の科学	電子レンジなど日用品の科学について理解する。
13	まとめ	これまでの授業の内容を総括し、演習に備える。
14	演習１	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。
15	演習２	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	生活と科学			ナンバリング	MB25-GE-13-2
担当者氏名	有吉　邦江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-111（知識・技能)食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ○ A12-120（思考力・判断力・表現力)社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。 ○ A13-125（主体性・多様性・協調性)幅広い視点と職業人としての社会的責任と倫理観を持って行動することができる。				

《授業の概要》
普段何気なく過ごしている生活における科学的側面を理解する。また、科学的思考をもって生活できる能力を身につける。

《テキスト》
市販テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》
横川公子ほか「生活を科学する」（光生館）
纐纈守「楽しく学ぶ　くらしの化学」（化学同人）

《授業の到達目標》
①生活と科学の関わりについて理解できている。
②生活するうえで、科学的思考が身に付いている。

《授業時間外学修》
事後学修：配付資料の要点整理をしておくこと。(20分程度)

《成績評価の方法》
①期末試験（70%）②演習の取組状況（参加状況・レポート等）（20%）③平常点（10%）提出物、小テスト等
《フィードバックの方法》①期末試験（60分、講評30分）②授業開始前の小テスト終了後解説

《備考》
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	物質科学の基礎	単位の由来、物質の成り立ちなど、物質科学の基礎を振り返る。
2	清潔さの科学	石けん、洗剤などの科学について理解する。
3	金属の科学	金属の性質や用途などについて理解する。
4	いのちの科学1	染色体を構成する核酸の構成、仕組みなどについて理解する。
5	いのちの科学2	体を守る免疫のしくみについて理解する。
6	エネルギーの科学	化石、原子力、自然などのエネルギー資源と課題などについて理解する。
7	色と光の科学	発色の仕組みや感じ方などについて理解する。
8	においの科学	においの感じ方、香り成分や作用などについて理解する。
9	高分子の科学	合成繊維、プラスチックなどの成分や性質などについて理解する。
10	おいしさの科学	おいしさの感じ方などについて理解する。
11	化粧品の科学	化粧品の成分や作用などについて理解する。
12	日用品の科学	電子レンジなど日用品の科学について理解する。
13	まとめ	これまでの授業の内容を総括し、演習に備える。
14	演習１	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。
15	演習２	これまで学んできた生活と科学との関わりについて、演習を行う。

《教養科目 科学的思考の基盤 一般教養》

科目名	理数応用			ナンバリング	MB25-GE-02-1
担当者氏名	岡村　美和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。				

《授業の概要》
基礎分野である「物理学、化学、生物学、統計学」を理解するために、高等学校教育までの内容で、医療系職種に必要な基礎知識を学ぶ。

《テキスト》
臨床検査技師をめざす人の基礎トレーニングドリル(化学同人)

《参考図書》
適宜紹介する。

《授業の到達目標》
①理数応用と臨床検査のつながりをイメージできる。
②臨床検査で必要な計算ができる。

《授業時間外学修》
事後学習：配布した計算問題を解く（30分）
授業用資料を見直す（30分）

《成績評価の方法》
①期末試験（70%）
②課題または小テスト（30%）
《学生へのフィードバックの方法》
試験終了後に試験の内容に対して説明をする。 期末試験60分、解説30分。

《備考》
専門分野の知識を身につけるために必要な基礎学力をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	生物の基礎①	細胞や組織の構造
2	生物の基礎②	呼吸器と循環器
3	生物の基礎③	消化器：栄養と吸収
4	生物の基礎④	泌尿器：尿の生成
5	数学の基礎①	四則計算、分数の計算
6	数学の基礎②	指数計算、対数計算
7	数学の基礎③	臨床検査で用いる計算
8	数学の基礎④	臨床検査で用いる計算
9	化学の基礎①	元素の種類、原子の構造
10	化学の基礎②	物質量
11	化学の基礎③	物理変化、気体の状態
12	化学の基礎④	水溶液、化学変化
13	化学の基礎⑤	中和、酸化還元反応
14	化学の基礎⑥	体に必要な有機化合物
15	化学の基礎⑦	その他、まとめ

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	母と子の健康			ナンバリング	MB26-GE-12-1
担当者氏名	井上　富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○　A11-94（知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。				

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

①　女性の身体構造とその機能を理解している。
②　避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
③　女性のライフステージと健康障害について理解できる。
④　妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

①レポート（30%）
②期末試験（70%）
《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

谷田恭枝　著「新版　女性と生命」東海大学出版部
配布資料：テキストの補足資料
映像資料：パワーポイント、DVD

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
「ウィメンズ・メディカ」小学館
深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

・事前学修（15分程度）：テキスト（配布資料）に目を通し、わからない語句があれば調べておく。
・事後学修（15分程度）：テキスト・配布資料を読み、授業内容を復習する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ＯＲ・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き：性周期・月経の仕組み
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法の種類と特徴 性感染症の種類と予防法
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：月経のトラブルと炎症、不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・分娩の3要素・産後の経過
12	妊産婦の健康上の問題⑤	分娩期・産褥期の異常
13	小児の成長と発達	小児（新生児）の成長と発達、栄養（離乳食）
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑤	ＤＶＤ（生命誕生・出産）

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	母と子の健康			ナンバリング	MB25-GE-12-1
担当者氏名	井上　富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A13-134（主体性・多様性・協調性)医療人になる意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

①　女性の身体構造とその機能を理解している。
②　避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
③　女性のライフステージと健康障害について理解できる。
④　妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

①レポート（30%）
②期末試験（70%）
《試験のフィードバック方法》
期末試験終了後に解説する。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

谷田恭枝　著「新版　女性と生命」東海大学出版部
配布資料：テキストの補足資料
映像資料：パワーポイント、DVD

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
「ウィメンズ・メディカ」小学館
深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

・事前学修（15分程度）：テキスト（配布資料）に目を通し、わからない語句があれば調べておく。
・事後学修（15分程度）：テキスト・配布資料を読み、授業内容を復習する。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ＯＲ・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き：性周期・月経の仕組み
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法の種類と特徴 性感染症の種類と予防法
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：月経のトラブルと炎症、不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・分娩の3要素・産後の経過
12	妊産婦の健康上の問題⑤	分娩期・産褥期の異常
13	小児の成長と発達	小児（新生児）の成長と発達、栄養（離乳食）
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑥	ＤＶＤ（生命誕生・出産）

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	情報リテラシー			ナンバリング	MB26-GE-08-1
担当者氏名	梅村　祥之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　A11-93（知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ◎　A11-94（知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○　A13-105（主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 ○　A13-106（主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》
情報通信技術の浸透した現代社会で必要とされる情報の利活用能力を養うための学修を行う．具体的にはコンピュータの仕組み，インターネットの仕組み，人工知能の仕組みを学習する．以下の項目は演習を通じて身につける．すなわち，メールの設定と操作法および書き方，インターネットによる情報検索，生成AIによる調査について演習を通じて理解する．

《授業の到達目標》
①コンピュータの仕組みを理解できる
②インターネットの仕組みを踏まえた活用ができる
③生成AIの仕組みを踏まえた活用ができる

《成績評価の方法》
①授業のまとめの提出 26%　②授業中の演習問題提出 31%
③ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実施 5%（ﾌﾟﾚｾﾞﾝｽﾗｲﾄﾞ提出は②に含まれる）　④期末試験 38%　　《学生へのフィードバック方法》
①～③は機械的な評価方法による評価のため自ら集計可能．
④は採点結果を個別にﾒｰﾙで送信．

《テキスト》
なし（配布資料）

《参考図書》
なし（生成AIを活用して文献情報を収集する方法を授業内で学ぶ）

《授業時間外学修》
事前学修：なし
事後学修　－ 座学中心の回(1,3-5,7-11)は授業内容の復習　－ 演習を伴う回(2,6,12,13,14)は，授業中に行う演習の見直しと追加・修正　－ 15回は期末試験の試験勉強 － 時間数:1回：30分，2,6,12,13,14回：120分，3-5,7-11回：60分，15回:240分

《備考》
ノートPCを持参すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	情報リテラシーとは
2	電子メールの設定と使い方演	電子メールソフトThunderbirdの設定と使い方の演習
3	コンピュータの仕組み	パソコンのハードウェア，CPUの仕組み
4	インターネットの仕組み	イーサネット，TCP/IP
5	World Wide Webとメールの仕組み	http，https，URL，HTML，サーバー，ブラウザ
6	情報検索の仕組みと演習	Webページの収集，検索，ページランキングに関する座学と演習
7	情報セキュリティ(1)暗号通信	秘密鍵暗号，公開鍵暗号，https
8	情報セキュリティ(2)セキュリティ	パスワード，アクセス権，DOS攻撃，ランサムウェア
9	人工知能入門	ニューラルネットワークの基礎，ベクトルによる単語の表現
10	生成AIが文章を理解する仕組	画期的な技術Transformerによる文脈理解の仕組み
11	生成AI利用法	生成AIのメカニズムを踏まえたプロンプトの書き方
12	生成AIを用いた各種調査の演習	生成AIを用いた各種調査と情報の信頼性チェック
13	生成AIを用いたプログラミング演習	ChatGPTのライブコーディングを使ったプログラム作成と演習
14	総合演習	これまでの内容からプレゼン課題を設定して演習
15	プレゼンテーション	総合演習で行なった内容をプレゼンテーション

《教養科目 人間と生活・社会の理解 一般教養》

科目名	情報リテラシー			ナンバリング	MB25-GE-08-1
担当者氏名	梅村　祥之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-129（知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ○ A12-131（思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A13-134（主体性・多様性・協調性)医療人になる意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》
情報通信技術の浸透した現代社会で必要とされる情報の利活用能力を養うための学修を行う．具体的にはコンピュータの仕組み，インターネットの仕組み，人工知能の仕組みを学習する．以下の項目は演習を通じて身につける．すなわち，メールの設定と操作法および書き方，インターネットによる情報検索，生成AIによる調査について演習を通じて理解する．

《授業の到達目標》
①コンピュータの仕組みを理解できる
②インターネットの仕組みを踏まえた活用ができる
③生成AIの仕組みを踏まえた活用ができる

《成績評価の方法》
①授業のまとめの提出 26%　②授業中の演習問題提出 31%
③ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実施 5%（ﾌﾟﾚｾﾞﾝｽﾗｲﾄﾞ提出は②に含まれる）　④期末試験 38%　　《学生へのフィードバック方法》
①～③は機械的な評価方法による評価のため自ら集計可能．
④は採点結果を個別にﾒｰﾙで送信．

《テキスト》
なし（配布資料）

《参考図書》
なし（生成AIを活用して文献情報を収集する方法を授業内で学ぶ）

《授業時間外学修》
事前学修：なし
事後学修　－ 座学中心の回(1,3-5,7-11)は授業内容の復習　－ 演習を伴う回(2,6,12,13,14)は，授業中に行う演習の見直しと追加・修正　－ 15回は期末試験の試験勉強 － 時間数:1回：30分，2,6,12,13,14回：120分，3-5,7-11回：60分，15回:240分

《備考》
ノートPCを持参すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	情報リテラシーとは
2	電子メールの設定と使い方演	電子メールソフトThunderbirdの設定と使い方の演習
3	コンピュータの仕組み	パソコンのハードウェア，CPUの仕組み
4	インターネットの仕組み	イーサネット，TCP/IP
5	World Wide Webとメールの仕組み	http，https，URL，HTML，サーバー，ブラウザ
6	情報検索の仕組みと演習	Webページの収集，検索，ページランキングに関する座学と演習
7	情報セキュリティ(1)暗号通信	秘密鍵暗号，公開鍵暗号，https
8	情報セキュリティ(2)セキュリティ	パスワード，アクセス権，DOS攻撃，ランサムウェア
9	人工知能入門	ニューラルネットワークの基礎，ベクトルによる単語の表現
10	生成AIが文章を理解する仕組	画期的な技術Transformerによる文脈理解の仕組み
11	生成AI利用法	生成AIのメカニズムを踏まえたプロンプトの書き方
12	生成AIを用いた各種調査の演習	生成AIを用いた各種調査と情報の信頼性チェック
13	生成AIを用いたプログラミング演習	ChatGPTのライブコーディングを使ったプログラム作成と演習
14	総合演習	これまでの内容からプレゼン課題を設定して演習
15	プレゼンテーション	総合演習で行なった内容をプレゼンテーション

《教養科目 人間と生活・社会の理解 外国語》

科目名	医学英語Ⅰ			ナンバリング	MB25-FL-05-1
担当者氏名	福田　順				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ A11-141（知識・技能)国や地域の文化、人間・社会及び環境・自然についての幅広い知識を有している。 ○ A12-132（思考力・判断力・表現力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 ○ A12-144（思考力・判断力・表現力)自立した社会人としてのコミュニケーション能力や表現力を身につけている。 ○ A13-134（主体性・多様性・協調性)医療人になる意識を持ち、人のために役立つ行動ができる。				

《授業の概要》
国際社会においては、最新の知識の吸収、研究には語学が、とりわけ英語力が要求される。そのため、臨床検査に関する内容を扱った英語を学習する。様々な英文の精読を通して、既習の文法を定着させ、読解力の伸張を期す。高等学校卒業程度の英語力を基盤にして、医学英語の読み方の基礎を習得させる。また異文化の理解をすすめる。

《授業の到達目標》
①基本的な英文法・英単語を習得している。
②英文を読みとる力を習得している。
③単語を並べかえ英文を作成する力を習得している。
④スムーズな音読ができる。

《成績評価の方法》
①コメントシート　20%
②中間テスト　30%
③期末試験　　50%
《学生へのフィードバックの方法》
期末試験(60分)，解説(30分)

《テキスト》
Tetsuzo Sato他「Slow & Steady一大学生の総合基礎英語」(南雲堂)

《参考図書》
適宜紹介します。

《授業時間外学修》
事前学修：英和辞典を活用して単語や熟語を調べる。課題をする（30分程度）。
事後学修：間違った問題のやり直しや単語の意味の確認をし、学習した範囲で、理解があいまいな箇所をなくす(30分程度)。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	臨床検査技師の教育実習のオリエンテーション	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、学習の仕方等） Unit 1　5つの基本文系
2	検尿検査室における実習	Unit 2　動詞
3	寄生虫検査室における実習（Ⅰ）	Unit 3　進行形・未来形・助動詞
4	寄生虫検査室における実習（Ⅱ）	Unit 4　名詞・冠詞・代名詞
5	血液検査室における実習（Ⅰ）	Unit 5　前置詞・接続詞（Ⅰ）
6	血液検査室における実習（Ⅱ）	Unit 6　形容詞・副詞と比較級
7	化学検査室における実習（Ⅰ）	Unit 7　命令文・感嘆文
8	化学検査室における実習（Ⅱ）	中間試験 Unit 8　不定詞
9	血清検査室における実習（Ⅰ）	Unit 9　動名詞と分詞
10	血清検査室における実習（Ⅱ）	Unit 10　各種疑問文・Itの特別用法
11	細菌検査室における実習（Ⅰ）	Unit 11　受動態
12	細菌検査室における実習（Ⅱ）	Unit 12　完了形
13	組織検査室における実習（Ⅰ）	Unit 13　接続詞（Ⅱ）（自制の一致を含む)
14	組織検査室における実習（Ⅱ）	Unit 14　仮定法
15	まとめ	Unit 15　関係詞